

### 3. 分科会報告

## 青年期のキャリア形成分科会 討論のまとめ

#### \* フロアーからの質問・感想

・1時間40分があつという間に過ぎ去り、終わった後、感動と共にすがすがしさを感じました。教育のしようによってはこんな頼もしい個性的な生徒が育つのだと、実際の生徒、卒業生を前にして、教育の有効性と貴校の教育力を実感いたしました。その背景には、もちろん教職員他いろいろな人々のたまざる努力あると思います。

・総合人間科については午前の座談会からも非常に有効に機能し人生の人格形成に寄与している様子もわかりました。

・午前中の総合人間科についての生徒たちの話はとても感動しました。このようなことを話せる生徒が育っていることはすばらしいと思います。ある程度の学力が必要とどのことであるがたとえば教育困難校とか底辺校といわれる学校での実践は難しいのでしょうか。

・キャリア・モデルの機能についてたいへん興味深く思いました。総人でも実体験を非常に重視されているようですので、キャリアモデルのレベルにも深いもの（身の回りの人）から浅いもの（実在しない人）まで様々と思えますがそれによる機能の違いはいかがでしょうか。

・今、私の勤務校で、キャリア形成のためのカリキュラムを作ろうという動きがあります。ソーシャルスキルとキャリア形成の二本柱でいきたいと思い、マニュアル作りをしています。

・附属中学から来た生徒と他の中学から進学してきた生徒との間にキャリア形成のプロセスの違いは見られるのでしょうか。入学してくる生徒・親の動機はどのようなことでしょうか。それによりキャリア形成プロセスの違いがありますか。

・総合人間科のⅠとⅡの違いと関連

・総人の活動を通してキャリアについては2つの過程があると感じた。1-2-2-1の1-2がキャリア形成、2-1が発達

・貴校は小人数ということもあり、うまく運営できているように感じましたが生徒数が多い場合でも同じケースが可能と思われませんか。

・総合的な学習の時間では体験が大切な要素となっている。しかし、体験があっても視点が定まっていなければ学びが成立しない。視点の選択をどのようにしたらいいのか。

・中学で教えていることが、高等学校での学習に結びつくようにと考えて参加しました。本校でも今年から総合的な学習の時間のカリキュラムを一部改善して職業教育（進路の学習）を開始しました。いろいろと参考になる

ことが沢山あります。

・総合人間科の評価

・中学から高校へ自動的に進んでいく生徒の中で勉強に取り組みがうすい生徒に対してどのように取り組んでいるのですか。

・総合人間科のフィールドワークを通じた学習は人間形成および学びを知る学習方法としてたいへんよい。

・本校は併設型の中等部を開設しました。今年度から総合的な学習の時間では表現をテーマに行っていますがキャリア形成を6年間でどのように行うかということに関心をもち、参加しました。

・キャリア教育の概念

現実の進路指導に対して、本来の進路指導という表現でいいのではないか、あえてキャリア教育とすることの意義は何か。

・近年の雇用状況の大きな変化によってかつてのような進路イメージをもちにくくなっている。それにどう対応するのか

・フィールドワークを単なる体験に終わらせずに生徒一人一人の学びを深めるキャリア形成につなげるための教師の指導援助はどうあればよいか。

・中学入試、高校入試においてどのような生徒を期待してどのような入試を行っているのか。